

都市計画マスタープラン「地域別構想」(たたき台)について

1 寺泊地域の概要

- ・ 寺泊地域は、本市で唯一海岸線を有し、大河津分水路からの土砂堆積により形成された海岸部と、その背後に広がる丘陵地・水田地帯からなる地域です。
- ・ JR寺泊駅周辺には、大河津工業団地が整備され、職住が近接した市街地が形成されています。また、大河津地区の国道116号沿道には、商業施設が立地し、地域の日常的な買物需要を支えています。
- ・ 海岸部の寺泊、野積地区は、古くは北前船の寄港地として、また、北国街道の宿場町として栄え、現在は、「魚の市場通り」や海水浴場でにぎわう観光産業の拠点となっています。

地域の概要を示す写真

○地域に関するデータ

- ・ 総面積 58.2 km² (6.9%)
- ・ 総人口 11,636 人 (4.1%)
- ・ 世帯数 3,162 世帯 (3.3%)
- ・ 年少人口比率 12.7%
- ・ 高齢人口比率 28.7%

(出典) 平成17年国勢調査
※カッコ内は市全体に占める割合

2 現状と課題

○生活環境上の課題

- ・ 寺泊地域は、起伏のある地形や集落が点在する地理的条件などの制約があり、他の地域に比べて、公共下水道などの整備が遅れています。
- ・ 新島崎川沿いや市街地の低地部では、近年の集中豪雨時の際に、浸水被害が発生しています。また、大河津分水路の堤防護岸の強化が必要です。

○道路・交通ネットワーク上の課題

- ・ 寺泊地域と長岡地域を結ぶ国・県道は、住民の通勤・通学などの日常生活はもとより、広域観光を支える重要な路線であることから、道路幅員の拡幅や歩道整備など、さらなる道路機能の強化が必要です。
- ・ 「魚の市場通り」周辺では、慢性的な交通渋滞が発生しています。
- ・ 海岸部の幹線道路や幅員の狭い生活道路では、歩行者の安全性を確保する歩道の整備や交通安全施設の設置が必要です。

- ・ 寺泊地域の一部には、バス交通の空白地域が見られます。また、高齢者や学生など自動車を運転しない住民の交通手段を確保する必要があります。

○観光基盤づくりの課題

- ・ 日本海に面した寺泊地域は、観光産業が定着し、年間約 252 万人の観光客が訪れています。加えて、佐渡との交流を促進し、さらなる地域の活性化を図るため、既存の観光関連施設の活用や再整備を検討し、観光振興につなげていく必要があります。

○地域産業の活性化に向けた課題

- ・ 寺泊地域では、年々人口が減少してきており、とりわけ若年層の人口流出が顕著です。地域における雇用の場を創出し、定住人口の確保につなげるため、都市整備の面からも地域産業の活性化を支援する必要があります。

○環境保全と土地利用の課題

- ・ 良好な住環境を確保しながら、地域産業の振興を図るため、幹線道路の沿道開発などについては、今後、適切な開発誘導が必要です。
- ・ 海岸部の寺泊地区や野積地区では、港町らしい街なみが広がる一方、住宅が密集して立地し、道路幅員も狭い箇所があります。
- ・ 海岸部では、人口減少や転居に伴って、空き家や空き地が発生し、市街地の空洞化や地域の防犯対策に課題が生じています。

3 地域づくりの方針

<地域の将来像>

今後、地域委員会や策定委員会の議論を踏まえて、記述する予定

○快適な生活環境を支える污水处理施設の整備推進

- ・ 寺泊地域における污水处理施設の整備を効率的に推進するため、污水处理計画を見直しました。今後は、新たな計画に基づき、他の合併地域と同程度まで整備水準の向上を図ります。

○幹線道路及び生活道路の整備

- ・ 長岡地域の中心部と寺泊地域を結ぶ「県道長岡寺泊線」は、信濃川左岸バイパスの暫定ルートと位置付け、整備を推進します。

- ・地域の骨格となる「国道 116 号」については、合併した地域や隣接する他の市町村への連絡強化を図るため、大河津橋左岸の交差点部における渋滞の緩和など、道路環境の改善を図ります。
- ・「魚の市場通り」を通過する「国道 402 号」については、周辺の道路状況や交通の流れを考慮し、混雑解消に向けた対応を検討します。
- ・「県道渡部敦ヶ曾根線」などの幹線道路については、道路拡幅等を促進します。
- ・身近な生活道路や通学路では、道路照明灯などの交通安全施設を設置するとともに、歩道の整備を推進します。

○公共交通ネットワークの充実

- ・長岡地域との連携強化や佐渡へのアクセス性の向上を図るため、観光シャトルバスの運行を検討します。
- ・バス交通の空白地域においては、住民が主体となった運営や既存のスクールバスへの乗合せなど、新たな交通手段の導入を検討します。また、既存のバス路線は、現在の路線を維持するとともに、運行時間の延長などを検討します。

○安全・安心な都市基盤の整備

- ・寺泊地区や野積地区の住宅密集地では、港町の街なみを活かしながら、緊急時に迅速に対応できる安全・安心で災害に強い「防災安全街区づくり*」を進めます。
(*…道路、公園、防火水槽などの整備)
- ・新島崎川沿いなどの低地部では、集中豪雨に対応する道路側溝等の整備を推進します。また、大河津分水路の河道拡幅や堤防強化などの整備を促進します。

○観光振興に向けた施設整備

- ・「魚の市場通り」や「寺泊海浜公園」など、既存の観光拠点においては、駐車場の整備、来客者への案内誘導及び施設更新などを通じて、機能強化を図ります。
- ・豊富な地域資源や国有地を活かしながら、佐渡や他地域と一体となった広域観光拠点の形成に向けて、さらなる基盤整備を検討します。

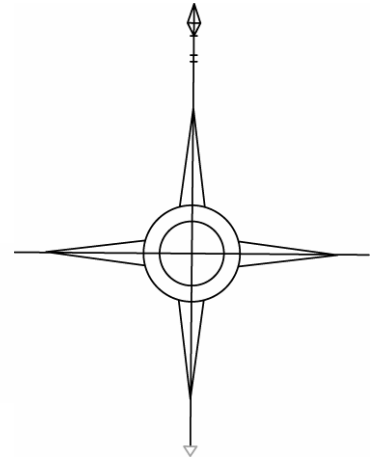
○雇用促進に向けた土地利用の誘導

- ・定住人口の確保と雇用の場を創出するため、必要に応じて適切な土地利用を検討します。

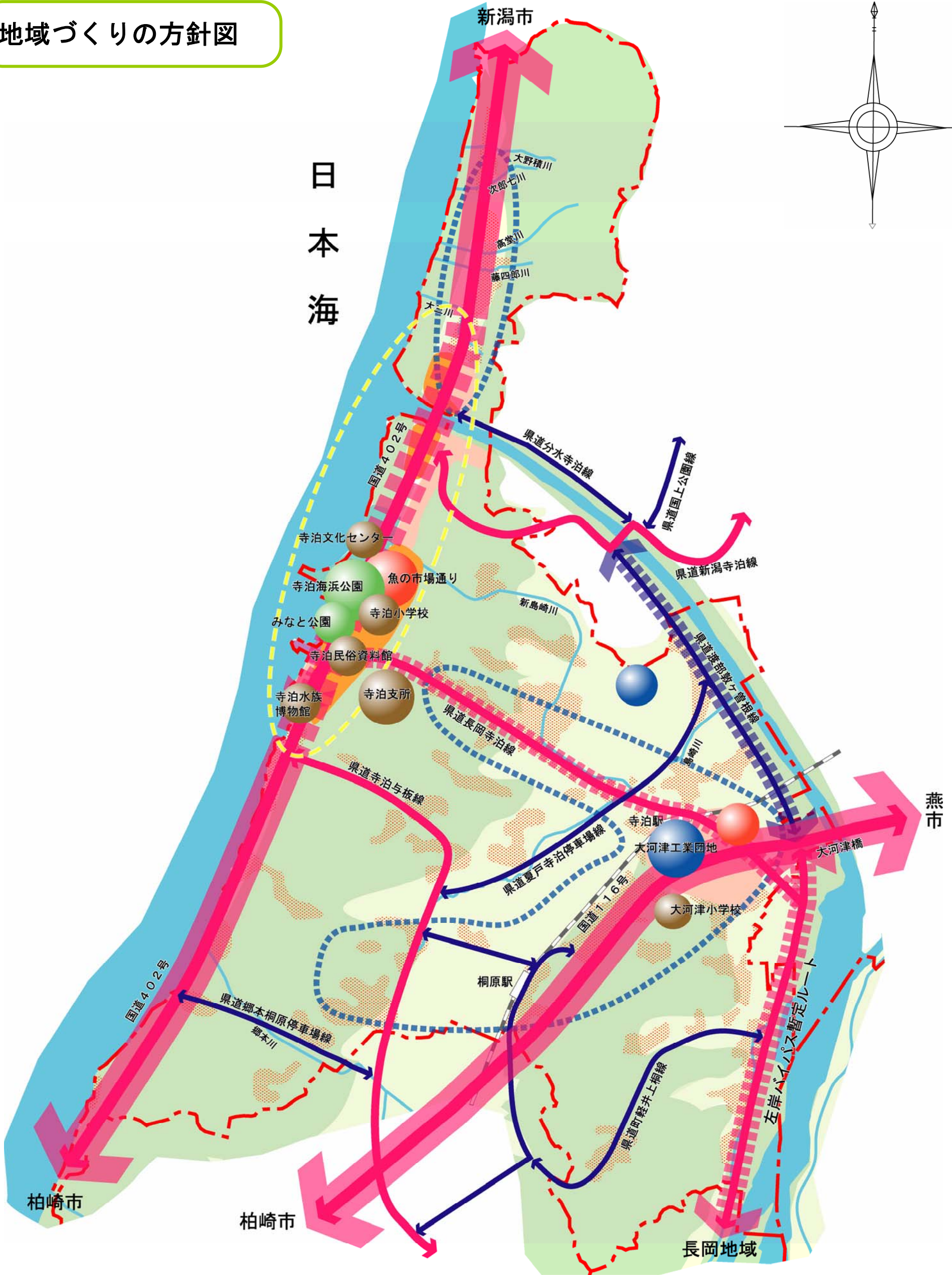
○自然環境の維持・保全と街なみ景観の活用

- ・恵まれた田園地帯や海岸域は、地域固有の自然資源であり、この豊かな自然が「トキ」の分散飼育に最適な環境です。今後も、このような自然環境を維持・保全します。
- ・自然環境の面からも、農地や地域の家屋を守る防風林等について、今後も維持・保全します。
- ・海岸部の港町らしい街なみ景観の保全や、空き地や空き家の有効活用などの仕組みづくりを検討します。

地域づくりの方針図



日本海



土地利用		凡例	
	近隣型商業集積地		道路(計画・整備を検討する路線)
	工業・業務集積地		主要幹線道路
	レクリエーション交流地		都市内幹線道路
	にぎわい住宅地		地域界
	うるおい住宅地		鉄道
	農村集落地		
	農地		
	山林・河川敷		
	公共公益施設		
	河川		
	污水处理区域		
	観光拠点		

